

転倒災害の主な原因

UFOを意識しましょう。「うっかり油断・不注意・横着」が転倒災害の原因にもつながります。また下のチェックリストで、職場に似たような危険がないか確認しましょう。

UFOとは ①...うっかり油断(準備不足・確認不足など) ②...不注意(危険軽視・周囲に注意を払わないなど) ③...横着(急げる・楽をしようとするなど)

参考:「転倒予防・腰痛予防の取組」(厚生労働省) (https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000111055.html) を加工して作成



転倒の危険 チェックリスト

- 通路、階段、出口に物を放置していませんか
- 靴は、すべりにくくちょうど良いサイズのものを選んでいませんか
- ポケットに手を入れたまま歩くことを禁止していませんか
- 床の水たまりや油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか
- 転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していませんか
- ストレッチや転倒予防のための運動を取り入れていますか
- 通路や階段を安全に移動できるように十分な明るさ(照度)が確保されていますか
- 段差のある箇所やすべりやすい場所などに、注意を促す標識をつけていませんか
- 転倒を予防するための教育を行っていますか

ちゅーん豆知識 季節の変化に応じて行う「衣替え」。衣替えはもともと中国の風習で日本に伝来したのは平安時代、中国と同様に年2回、貴族の間だけの行事でした。江戸時代になると、衣替えは年4回に増え、江戸幕府は季節の衣で出仕する(勤めの場所に出る)ことを制度化。やがて1873(明治6)年、明治政府は制服を6月1日と10月1日に衣替える事とし、これが現代の私たちの生活に残っています。

レンタルのニッケン
ホームページでも最新情報をお届けしています。是非ご覧ください。

レンタルのニッケン 検索 **メルマガ 配信中!**

安全ニュースのご活用についてのお願い
弊社は皆様の安全作業に関するよりよい情報をご提供するため、安全ニュースの製作・配布に取り組んでおります。下記、ご理解いただき、ご活用いただけますようお願い致します。

- 安全ニュースの一部または全部において、個人・法人を問わず、弊社および引用先(各種団体など)の許諾を得ずに、いかなる方法においても、営利目的にて、無断で販売・複製・複製・貸付・加工・加筆および、公衆送信(インターネットやそれに類した送信)などを利用して提供することを禁じております。
- 弊社は、本紙の内容において如何なる保証も行いません。
- 本紙内容にて発生した障害および事故についても、弊社は一切責任を負いません。

レンタルのニッケン 情報発信中!
公式 Twitter

フォロー 宜しく お願いします!

安全ニュースで取り上げて欲しい題材やご意見ご要望などがございましたらeメールをご活用ください **e-mail: nikken@rental.co.jp**

UD FONT 見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

NIKKEN

安全ニュース

Safety news

お客様の安全作業のために。

2023年
6月号
No. 258

編集・発行 株式会社レンタルのニッケン 安全技術部/営業企画部

お問い合わせ TEL.03-5512-7411



特集 全国安全週間、環境月間

- 労働災害発生状況
- 建設施工におけるカーボンニュートラルの実現
- 環境月間について
- 転倒災害の主な原因

2023年
7月号の予告
ヒューマンエラー
防止

7月1~7日は「全国安全週間」

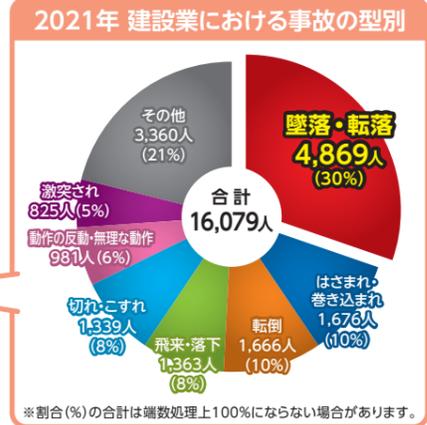
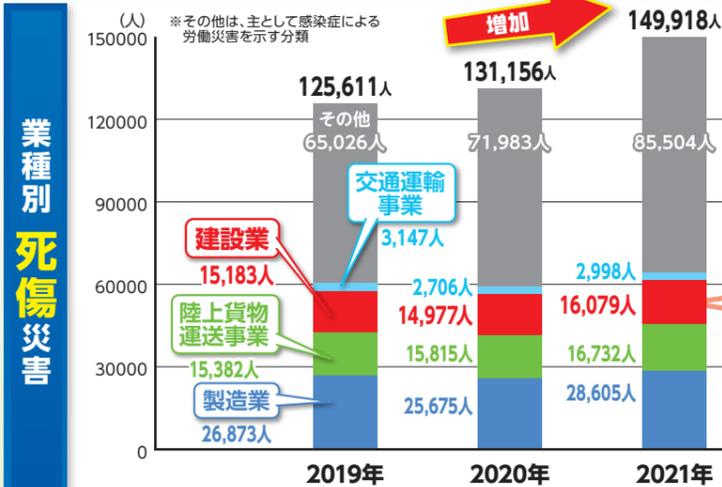
6月1日~30日は
準備期間です!

主唱者:厚生労働省、中央労働災害防止協会

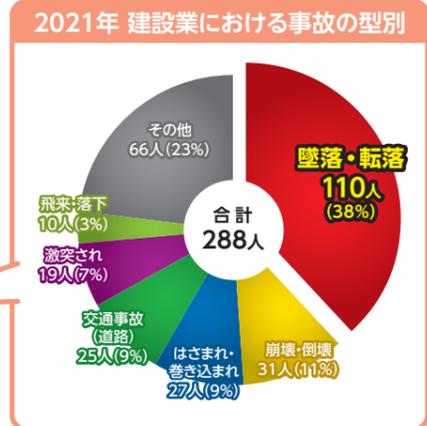
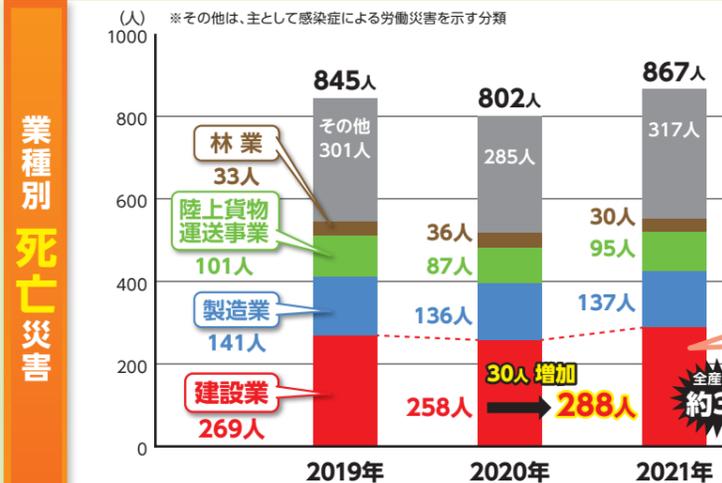
2023年度 スローガン 高める意識と安全行動 築こうみんなのゼロ災職場

参考:「労働災害発生状況」(厚生労働省) (https://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/anzeneisei11/rousai-hassei/) を加工して作成

労働災害発生状況



建設業 事故の型別は 死傷・死亡ともに 墜落・転落が最多!!



★ ホームページにも掲載しております!是非ご覧ください。★

環境月間について

6月5日は「環境の日」であり、6月の1ヶ月間を「環境月間」としています。みんなで環境のことを考えるこの期間に、最近よく耳にする「カーボンニュートラル」について学んでみましょう。

参考:「脱炭素ポータル」(環境省) (https://ondankataisaku.env.go.jp/carbon_neutral/about/)を加工して作成

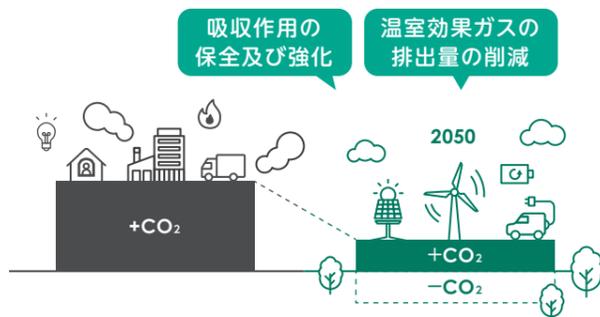
カーボンニュートラルとは

温室効果ガスの**排出量**と**吸収量**を**均衡**させることを意味します

2020年10月、政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、**カーボンニュートラル**を目指すことを宣言しました。

「排出を全体としてゼロ」というのは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」※から、植林、森林管理などによる「吸収量」※を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味しています。

※人為的なもの



吸収作用の
保全及び強化

温室効果ガスの
排出量の削減



世界的な平均気温上昇を工業化以前※に比べて**2℃より十分低く保つ**とともに、**1.5℃に抑える努力**を追求すること(2℃目標) ※1850~1900年

今世紀後半に温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と吸収源による除去量との間の均衡を達成すること



参考:「日本の年平均気温」(気象庁) (https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/an_jpn.html)を加工して作成

なぜカーボンニュートラルを目指すのか

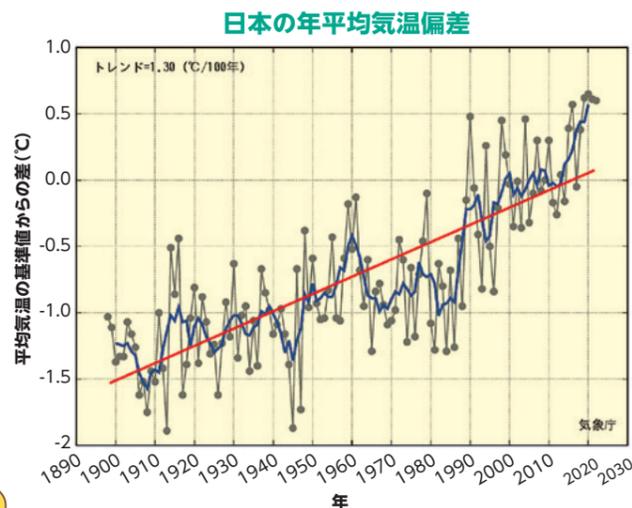
気候危機を回避するため、取り組む必要があります

2022年の日本の平均気温の基準値※からの偏差は+0.60℃で、1898年の統計開始以降、4番目に高い値です。年平均気温は、長期的には**100年あたり1.30℃**の割合で**上昇**しています。



豪雨や猛暑のリスクが高まる可能性

将来の世代も安心して暮らせる、**持続可能な経済社会**をつくるため、取り組む**必要があります**。



細線(黒):各年の平均気温の基準値からの偏差(個々の数値と平均値との差)、太線(青):偏差の5年移動平均値、直線(赤):長期変化傾向。
※基準値は1991~2020年の30年平均値。

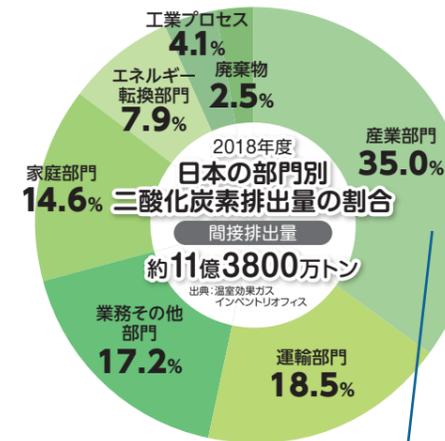
建設施工におけるカーボンニュートラルの実現

参考:「国土交通省における地球温暖化緩和策の取組概要」(国土交通省) (<https://www.mlit.go.jp/common/001386820.pdf>)を加工して作成

従前の取り組み

ICT施工を導入し、作業効率が向上することでCO₂排出を削減してきた。

ディーゼルエンジンを基本として、その燃費向上を目指し、燃費基準の策定、機器認定を行い、融資等で導入を促進してきた。



建設機械の排出量約571万t-CO₂
産業部門のCO₂排出量のうち**建設機械が1.4%**

新たな取り組み

短期

生産性が向上するICT施工を建設業の大半を占める中小建設業へ普及を図る。

中長期

ディーゼルエンジンに替わる革新的建設機械(電動、水素、バイオ等)の使用原則化を含め、導入拡大を図る。



環境配慮型建設機械の紹介

ユンボ0.7 ハイブリッドクレーン

業界初リチウムイオンバッテリー使用

低炭素型
建設機械
国土交通省
認定

大容量のリチウムイオンバッテリー採用により、ユニットの小型化と大容量蓄電を両立。持続的かつ、パワフルなアシストを実現します。



- 旋回時は、旋回電動モータのみで加減速し、高い複合操作性を発揮。
- 掘削・走行時は、発電電動機のアシストにより、エンジンの負荷を大きく軽減。

電動ミニ・クローラクレーン

リチウムイオンバッテリー完全電動仕様

軽油代と比べ
約**87%**コスト低減



- 操作中充電による連続運転可能
- 短時間充電
200V充電だと2時間20分で80%、3時間半で100%
100V充電だと5時間20分で80%、7時間で100%